

## 障害者スポーツの現状と課題および今後の展望

日時 2017年10月20日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 涌井 忠昭（人間健康学部教授）

2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることが決定して以来、これまで以上にスポーツに熱い視線が注がれている。

障害者スポーツは、1888年にベルリンに「聴覚障害者スポーツクラブ」が設立されたことが始まりとされている。その後、1910年に「ドイツろうあ者スポーツ協会」が設立され、同様な動きが近隣国に広まった。1924年にはパリで「第1回世界ろうあ者スポーツ競技大会（現在のデフリンピック）」が開催され、現在では4年毎に開催されている。一方、パラリンピックは、イギリスのストーク・マンデビル病院の脊髄損傷病棟の責任者であった医師のルードヴィッヒ・グットマン卿が「手術よりスポーツを」という方針のもと、車椅子によるスポーツを奨励し、治療やリハビリテーションの一環としてスポーツを取り入れた。1948年7月28日に「第1回ストーク・マンデビル競技大会」が、ロンドンオリンピックと同じ日に開催された。第1回大会の参加者は退役軍人の男性14名、女性2名の計16名で、競技種目はアーチェリーのみであった。その後、この大会はイギリス以外でも開催されるようになり、1964年に「国際身体障害者スポーツ大会」と名称を変更した。1964年の東京オリンピックの後に東京で「国際身体障害者スポーツ大会」が開催され、パラリンピックという名称が広く知られるようになった。この時のパラリンピックとは、Paraplegia（両下肢麻痺）とOlympic（オリンピック）の合成語であったが、現在ではParallel（同目的、相応しい等）とOlympic（オリンピック）の合成語とされている。

2011年に制定された「スポーツ基本法」では、「スポーツは、障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならない」と基本理念に掲げられた。本講座では、障害者スポーツの歴史、障害者のスポーツ・レクリエーション活動の現状、障がい者スポーツ指導員資格、堺市と関西大学が取り組む障害者スポーツ推進事業、アダプテッドスポーツ、関西大学堺キャンパスの準登録団体「Little suns」の車椅子バスケットボール活動を紹介しながら、障害者スポーツの現状と課題および今後の展望について話したいと思います。

### 【文献】

難波真理・齋藤まゆみ：障害者スポーツの歴史と展望、清水論編、現代スポーツ評論29、127-134、2013。

\* \* \*

●聴講無料 予約は不要です。多数のご来場を歓迎します。  
手話通訳が必要な場合は、10月5日（木）までに人権問題研究室へご連絡ください。



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs>